

## インドネシア活動報告②

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 28 年度 2 次隊

山口 麗子

### 【今月(3/13~4/13)の活動】

- ・学校巡回(1校) NPO 法人とごみ銀行、環境局の協働による授業
- ・北ロンボク県スタディツアー
- ・ラブアピ地区 PKK(地元婦人会)でのリサイクル手芸品作成
- ・配属先主催イベント「FOREST TREKKING」

#### ◎学校巡回

この1か月は配属先主催のイベント準備があるということで、1校しか訪問することが出来なかった。しかし、NPO 法人ゆいツールが持つ「ごみ分別プログラム」をウダヤナごみ銀行の現地人スタッフが実施するという新しい形での授業が出来た。3者にとって初めての試みであったが、子供たちの反応を見ても、これまでの授業の中で最も効果的な授業であった。(授業の様子は動画にて。)



写真奥左から3番目 NPO 法人ゆいツールの山本さん、左から5番目ウダヤナごみ銀行スタッフ Tia さん

#### ◎北ロンボク県スタディツアー

3/22~3/23 NPO 法人ゆいツールの山本さん、環境教育隊員2名の3名で北ロンボク県へ訪問を行った。北ロンボクにはロンボク島最大の観光地「ギリ3島(ギリトラワンガン、ギリメノ、ギリアイル)」がある。本島から離れている小島であり、それ故にごみ問題も深刻となっている。そこで、北ロンボク県の環境局に訪問し、局長にギリの現状を聞くと共に、ギリメノへ行き、住民の意見も伺った。行政と住民では認識の相違があり、住民の立場になることの重要性を改めて強く感じた。



局長へのヒアリング



右端は同期の環境教育隊員(私と同じく民間連携ボランティアとして大手運送会社から派遣されている)

◎ラブアピ地区 PKK(地元婦人会)でのリサイクル手芸品作成

4/8 西ロンボクのラブアピ地区で活動するごみ銀行「KAROMAH」の代表 Sitiさんの紹介を受け、PKKと言われる婦人会の集まりの中でプラスチックごみから鞆と皿を作る講習会に参加した。初めて村での実際の活動に1人で参加し、本当の意味で住民の実態を知ることができた。レクチャー後には Sitiさんの家にも訪問させてもらったが、家族4人狭い家で暮らしており、一日の食事も白飯と卵(家で飼っている鶏の卵)のみの日がよくあると言っていた。ごみ銀行も場所がある訳ではなく各々家で作ったものを持ち寄ってイベント等で販売しているという。今後も、連絡を取り合っ活動がより広がるようサポートしていく。



講習会の様子

◎配属先主催イベント「FOREST TREKKING」

4/12 配属先の所属部署が中心となってイベントが行われた。4/17 が西ロンボク県の誕生日だということで、県内各地で様々なイベントが行われている中の一つである。内容は、セコトン地区の山をスタンプラリーしながら登っていくというものであった。私は参加者としてイベントに関わったが、前日の雨で道がぬかるんでいたり、道なき道が多々あり、かつ炎天下の中 5,000 人近くの参加者がいた為、混雑で進めなくなったり、コースを外れてしまう人や脱水症状で倒れる人など、様々な問題が発生していた。イベントの最後にはテレビや自転車当たる抽選会があり、それを目的に参加している人がほとんどであった。せつかくの環境局主催のイベントなので、今回の経験をもとに来年は参加した住民がもっと環境問題に関心を持てるよう会場にブースを設けさせてもらう、あるいはイベントの中にプログラムを組み込んでもらう等提案したいと考えている。



山の中腹にて



ビューポイントでセルフィーを撮って優勝者を決めるというコンテストも行われていた。